ベトナム・ハノイから見た日本―28 歳女性の場合
⑤　発展途上の高齢者施設

ベトナムの企業ではほとんど残業がなく、午後 5 時には仕事終了です。人と出会う時間、旅に出る時間があります。今回は、そんな時間を利用して出かけた、ハノイで数少ない老人ホームについて。休日に、ベトナムの歴史研究で滞在している院生の友人のバイクで出かけました。

■　日本で学んだ女性医師が開設

ハノイ中心部からバイクを走らせること 50 分近く。紅河の川沿いで、低くなった（川の氾濫があればすぐに水没しそうな）古い町の一角に、看板がありました。「Trung tâm chăm sóc Người Cao Tuổi Thiên Đức」、ティエンドゥック高齢者ケア施設です。

迎えてくれたDuong（ズン）さんが、大使館勤めで、日本の昭和大で学んだという女医さん。旦那さんが施設長で、ここともう１つ、老人ホームを運営しているとのこと。日本の施設を参考にしているようです。

まず印象的だったのが、緑の多さ！ベトナムの家はもともと、外と中の区別が曖昧でとても開放的です。日本人からすればキャンプのよう。この施設でも、庭の中に住んでいるような感じがします。

（この廊下の左側に入居者の部屋があります）

個室もありますが、ほとんどが 3～8 人部屋で、月々80ドルから300ドルくらい（ちょっとうろ覚えです。このような民間の老人ホームはハノイに 4 つほどしかなく、田舎にはないそうです。あとは、公営の病院併設型で、住めたものではない、とか。民間施設には、ベトナム戦争後などに海外に渡った世代が、両親を母国で過ごさせようと、入居させている例も多いそうです。

施設は清潔でしたが、人口密度が高過ぎる気もしたし、重度者が多いのか、食堂でも会話が少ない気がしました。ただ、相部屋の居室は、家族でくっついて生活してきたベトナム人にとって「個室より寂しくないからいいのかも」という見方も出来ます。

（4 人部屋。ベッドは硬そうですがベトナムの標準型でもあります）

もうひとつ驚いたのは、車いす。ベトナムの路上には（家や飲食店の中でも）、プラスチックのいすが大活躍しています。いつでもどこでも。施設には、そのいすに車輪を付けた形のとっても安そうな車いすが闊歩（？）していました。恐るべし器用さです。

（食事の風景。会話は少なかった）

ベトナムには介護士の資格がないので、看護師さんが働いているということでしたが、体力的にきついので、辞める人も多いのだとか。日本で問題を解決できれば、ベトナムに応用できそうですね。